

大学の世界展開力強化事業(2020年度選定) 広島大学 取組概要

【事業の名称】(選定年度2020年度・(タイプA②))

南北アフリカとの互恵的パートナーシップ構築のためのトライアングル海外学習プログラム

【交流推進事業の概要】

- ・ 本学と北アフリカ4大学及びサブサハラ地域の2大学と共同で「トライアングル海外学習プログラム」を構築し、アフリカのニーズと本学のシーズ及び強みが交差する「教育」、「保健医療」及び「食料安全保障」の専門教育を中心とした学生交流プログラムを実施
- ・ 質の高い経済発展を主導するとともに、日本とアフリカ間だけでなく、多様なアフリカ地域間の架け橋となり、多国間の国際的協調においてリーダーシップを発揮できる高度グローバル人材を日本とアフリカ双方に育成

【交流プログラムの概要】

<オンラインによる共同学習>

- ・ 広島大学・アフリカ6大学合同のCOIL型教育

<広島大学生の派遣>

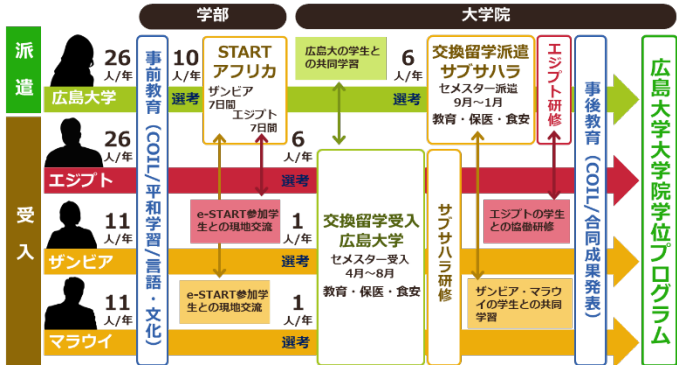
- ・ STARTアフリカ(学部学生対象の短期派遣)
ザンビアに1週間、その後エジプトに1週間滞在し、現地学生との交流を含めたSDGsをテーマとした現地学習
- ・ セメスター留学(大学院生対象の1学期間の交換留学)
ザンビア大学又はマラウイ大学にて、教育学、保健医療又は食料安全保障の専門教育を履修
その後エジプトに渡航し、現地短期研修に参加

<交流大学からの受入れ>

- ・ セメスター留学(大学院生対象の1学期間の交換留学)
広島大学にて、教育、保健医療又は食料安全保障の専門教育を履修
その後ザンビアに渡航し、現地短期研修に参加



トライアングル海外学習プログラム



【本事業で養成する人材像】

- ・ 「教育」、「保健医療」又は「食料安全保障」のいずれかを専門とし、日本と北アフリカ、サブサハラ地域の架け橋となる人材に必要な6つのコンピテンシー(異文化理解、リーダーシップ、協調性、コミュニケーション、研究応用力、成果志向)を備えたグローバル人材。
- ・ <派遣学生> 日本とアフリカに加えて、アフリカ地域の多国間の互恵的パートナーシップ形成に貢献するファシリテーターとして、アフリカの質の高い成長を実現するための社会変革に貢献する人材
- ・ <受入れ学生> アフリカが抱える課題解決のために、アフリカ地域の多国間の互恵的パートナーシップ形成においてリーダーシップを発揮し、アフリカ自身の成長を実現するための社会変革を主導する人材

【本事業の特徴】

- ・ アフリカを質の高い経済成長へ導く「教育」、「保健医療」及び「食料安全保障」の3分野の専門家の育成
- ・ 日本と北アフリカ、サブサハラ地域の3か国・地域を跨ぐ「トライアングル海外学習プログラム」の構築
- ・ 留学の質及び成果を高める事前・事後教育の実施及び平和学習及び日本語学習機会の提供
- ・ アフリカで展開する日本企業、国際機関及び地元自治体と連携したフィールド学習
- ・ 既存の「JICA海外協力隊ザンビア特別教育プログラム」を発展させた、将来的な連携学位プログラムの横展開

【交流予定人数】

		2020	2021	2022	2023	2024
派遣	実際に渡航する学生		16	16	16	16
	自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生	0	26	26	26	26
受入	実際に渡航する学生		8	8	8	8
	自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生	8	48	48	48	48

1. 取組内容の進捗状況(令和2年度)

【広島大学】

【事業の名称】(採択年度 令和2年度 タイプA)

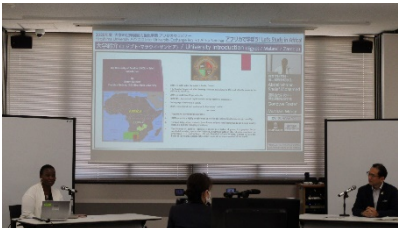
南北アフリカとの互恵的パートナーシップ構築のためのトライアングル海外学習プログラム

■ 交流プログラムの実施状況

北アフリカ地域のエジプトの4大学、サブサハラ地域のザンビア大学とマラウイ大学の計6大学と共同で、トライアングル海外学習プログラムを構築する。これにより、日本とアフリカを繋ぐだけでなく、多様なアフリカ地域間の架け橋となり、多国間の国際的協調においてリーダーシップを発揮し、質の高い経済発展を主導する人材を日本とアフリカの双方に育成する。アフリカを質の高い経済成長へ導く戦略3分野として、教育、保健医療、食料安全保障を重点分野とする。2021年3月には学内外に向け、オンライン・アフリカセミナーを実施し、約110名が参加した。また、3月～4月にはアフリカの学生向けオンライン平和コースを実施した。



【オンライン・アフリカセミナー】



【オンライン・アフリカセミナー】

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

- ・2020年度の派遣はなし
- ・2021年3月に実施したオンラインによるアフリカセミナーで本事業の概要、魅力を周知

○ 外国人留学生の受入

- ・2020年度においては2021年3月29日にオンラインでの平和コースを開始し、アフリカの5大学から計16名の学生が参加(その内、13名が2021年4月に修了)

	R2	
	計画	実績
学生の派遣	0	0
学生の受入	8	13

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

- ・アフリカとの連携実績のある教員をプログラムの担当者として配置
- ・外部評価委員会には、アフリカでの実績、重点3分野での知見等を勘案し、4名の委員を委嘱
- ・自己点検・評価の結果と外部評価委員会の検証結果に基づき、事業運営および教育プログラムの改善と質の向上を推進

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

- ・平和、SDGsといった地球規模の課題について、双方向性を確保したオンラインでの学習を促進
- ・日本-アフリカ間の時差を考慮し、オンデマンドによる学習と双方向性を確保した共同学習を組み合わせ、効率性と質を確保



【オンライン平和コース】



【オンライン平和コース】

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

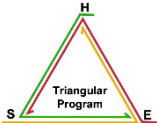
- ・2021年3月には学内外に向け、オンライン・アフリカセミナーを実施し、約110名が参加
- ・プログラム専用のウェブサイトの日英2言語で開設

■ グッドプラクティス等

参加学生は、国、文化、宗教に加え、専門分野も異なるが、「平和」や「SDGs」といった分野を超えた世界的課題を共通テーマとして据えることで一体感が生まれた。「ヒロシマ」の歩んできた道のりを広島大学が発信することで、アフリカの学生への訴求力も高まった。

2. 取組内容の進捗状況(令和3年度)

【広島大学】



【事業の名称】(採択年度 令和2年度 タイプA)

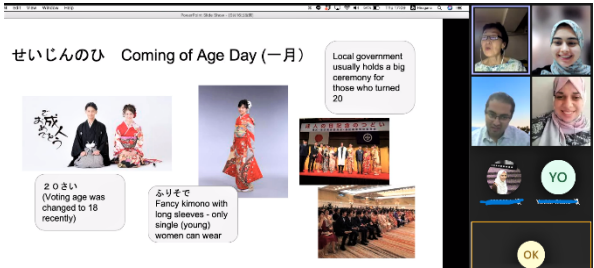
南北アフリカとの互惠的パートナーシップ構築のためのトライアングル海外学習プログラム

■ 交流プログラムの実施状況

北アフリカ地域のエジプトの4大学、サブサハラ地域のザンビア大学とマラウイ大学の計6大学と協働で、トライアングル海外学習プログラムを構築し、日本とアフリカを繋ぐだけでなく、多様なアフリカ地域間の架け橋となり、多国間の国際的協調においてリーダーシップを発揮し、質の高い経済発展を主導する人材を日本とアフリカの双方に育成している。2021年度にはオンラインで「SDGsの相互関係」、「国際協力入門」、「平和とSDGs」、「災害とレジリエンス」および「日本語・日本文化入門」コースを実施した。



【オンラインSDGs関係性コース】



【オンライン日本語・日本文化入門】

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

- ・ザンビア大学に1名、実渡航を伴う中期派遣を実施した。
- ・オンラインによる派遣は計27名で、全員に単位を付与した。

○ 外国人留学生の受入

- ・実渡航を伴う受入は実施できなかったが、4名を第2セメスターにオンラインで特別聴講学生として受け入れ、単位を付与した。
- ・オンラインによる受入(単位付与なし)は、55名に上った。

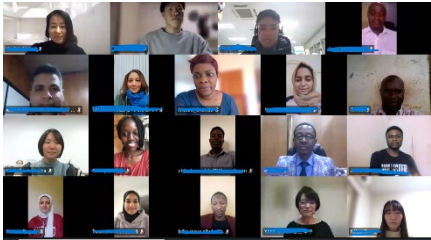
	R3	
	計画	実績
学生の派遣	42	28
学生の受入	56	59

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

- ・アフリカとの連携実績のある教員をプログラムの担当者として配置している。
- ・外部評価委員には、アフリカでの実績、重点3分野での知見等を勘案し、4名の委員を委嘱している。
- ・自己点検・評価の結果と外部評価委員会の検証結果に基づき、事業運営および教育プログラムの改善と質の向上を推進している。

■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

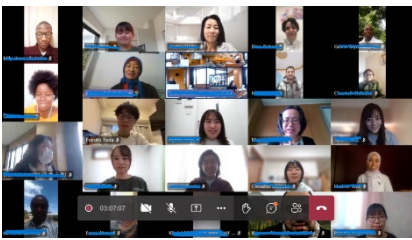
- ・平和、SDGs、国際協力といった地球規模の課題について、双方向性を確保したオンラインでの学習を促進している。
- ・日本-アフリカ間の時差を考慮し、オンデマンドによる学習と双方向性を確保した協働学習を組み合わせ、効率性と質を確保している。



【オンライン平和とSDGsコース】



【オンライン国際協力入門】



【オンライン災害とレジリエンスコース】

■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開、成果の普及

- ・本学で実施する留学プログラムの紹介イベントや、アフリカ地域を対象とした国際交流イベント等で、本プログラムを紹介し、取り組みについて広報を行った。
- ・プログラム専用のウェブサイト(日英2言語)でプログラムの進捗や成果を学内外に公表した。

■ グッドプラクティス等

「平和」、「SDGs」、「国際協力」といった分野横断的な世界的課題を共通テーマとして据えたことにより、国・専門の異なる様々な背景の学生が参加することができた。また、グループワークによる協働の機会を多く取り入れたことにより、学生交流を促進する機会を提供することができた。